巻頭言

就任に当たって



消防庁審議官　渡辺　剛英

８月４日付で消防庁審議官に就任いたしました。私は消防庁プロパーで、消防本部、県庁、他省庁等における在籍期間を含め、消防防災や危機管理の業務に携わってきました。火災や自然災害等から国民の生命･身体･財産を守る､消防行政の推進に全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任後の近況として、この８～９月にかけては、各地で観測史上最大の降雨を記録する豪雨が相次ぎ、その対応に追われました。広い範囲で外水氾濫・内水氾濫が発生し、いわば河川や都市の設計を超えるような厳しい気象条件の中、消防職団員による懸命の救助活動により、多くの住民が救われました。こうした状況は､気候変動の影響が常態化している中では全国どこでも起こりうるものであり､インフラ等のハード面で対処しきれない部分については、人的対応のソフト面によりカバーすることが求められるものとなります。このため、各地域の消防力確保が極めて重要となりますが、消防団員は減少傾向が続き、消防職員についても少子高齢化や人手不足等を背景として採用が難しくなってきているとの声が聞かれるようになっています｡気候変動や少子高齢化等に伴う課題については以前から種々指摘されているところですが、今回の災害対応を通じて、消防行政においても待ったなしの状況にあると改めて感じた次第です。

また、10月に入ってからは、（消防行政と直接関係ない話題ですが）サイバー攻撃による個人情報漏えいが連日報道されています。背景としてAIの性能向上や価格低下が指摘されておりますが、個人的に日頃使っている汎用タイプの生成AI一つ取っても、いろいろな場面で普通に「使える」と感じるレベルとなっています。AIについては、プラス・マイナスの両面において幅広い分野で動きが急加速しており、まさに社会全体がAIによる変革の最中にあると思います。消防行政においても、平時・非常時の両面においてAIの導入が急速に進むと予想されるところ、適切に活用していくためには、技術面や経済面の効用のみならず、俯瞰的な視点をもって臨んでいくべきではないかと考えております。

最後に、消防は基本的に人が主体の分野であり、各種施策を進めるに当たっては、消防職団員をはじめ地域における理解や共感が不可欠と考えております。こうした意味において、微力ですがこれまでの勤務経験を活かし、過去の教訓や技術的なセオリーの継承等に貢献できれば幸いです。